

【議題資料（a）】

「日本の ODA と NGO のパートナーシップの中期的強化」について

発題：大橋正明（連携推進委員）

（特活）国際協力 NGO センター 副理事長

1. 背景

これまで連携推進委員会での協議は、日本の NGO と ODA の関係のなかでも、主に「日本 NGO 支援無償資金協力」や「NGO 活動環境整備支援事業」を通じて連携を深めることを目指してきた。具体的に提案された「日本 NGO 支援無償資金協力に関する 11 + 2 提言」や「NGO 活動環境整備支援事業に関する改善提案」は、一部実現が困難とされている項目が残っているものの、実施要領の改訂や制度の弾力的運用というかたちで実現されている。こうしたなか、国際社会から日本の ODA への期待が集まる一方で国内では厳しい財政状況が続いており、今後は、既存の連携・支援の枠組みにとらわれずに中長期的にもさまざまな形態で日本の ODA と NGO の連携を深める必要が生じている。だがそのための各論となると、具体的なイメージや情報がないため、連携議論の中長期的方向性が見えにくい状態にある。

2. 議論の目標

上記の状態を改善し、日本の ODA と NGO とのいっそう効果的かつ効率的な連携のかたちを検討していきたい。具体的には、今後以下の各項目について共同で検討することを提案する。

- 1) 先進国及び途上国での政府（政府資金）と NGO の連携事例を調査する
- 2) そのなかで、日本型の連携のイメージを明確にし共有する
- 3) それにしたがって、パートナーシップを中期的に発展・強化する

3. 論点

- ー日本の NGO による ODA への「おねだり」ではない、互いに win-win の関係構築に向けたステップ
 - ー幅広い外務省や ODA 関係者（もちろん NGO も）との情報のシェア、理解、実行が求められる
- （以上）